

イベント・インフォメーション

シンポジウム：IOG/IFI2024 年度シンポジウム	122
国際交流：2024 IARU	124
イベントカレンダー	126
メディア情報	127
出版物	129
沿革・組織図	130

Event Information

IOG/IFI2024 年度 シンポジウム

大学ー地域連携における「ローカル・コモンズ」を考えるシンポジウム

～ウェルビーイング／生きがいのある健幸長寿を実現できる地域コミュニティづくり～

2025 年 2 月 1 日、東京大学本郷キャンパス HASEKO-KUMA HALL にて、シンポジウム「大学ー地域連携における『ローカル・コモンズ』を考える～ウェルビーイング／生きがいのある健幸長寿を実現できる地域コミュニティづくり～」を開催した。本シンポジウムは、未来ビジョン研究センター（IFI）コミュニティ協創研究部門、高齢社会総合研究機構（IOG）及び東京大学「プラチナ社会」総括寄付講座の共催により実施され、会場およびオンラインのハイブリッド形式で行われた。

本シンポジウムの目的は、人口減少や高齢化が進行する中で、地域における「支え合い」や「共有資源（コモンズ）」の価値を再認識し、大学と地域が協働して持続可能な地域社会の姿を探ることであった。地域住民の主体的な活動や自治体による支援、そして学術的知見を融合させた形で「ローカル・コモンズ」の再構築に向けた視座を提示することをねらいとした。

当日は、高知県仁淀川町、新潟県佐渡市、鹿児島県南種子町、神奈川県秦野市など、全国の多様な地域から NPO 法人や企業、学生や行政担当者が登壇し、各地域の取り組みと課題を紹介した。また、学内を中心とした研究者による講演・討議を通じて、「生きがい」や「社会的つながり」、「自然との共生」など、ローカル・コモンズの多面的な意義について理解を深める機会となった。本シンポジウムは、今後の共同研究や社会実装の展開に向けた貴重な連携の場となった。



プログラム

<開会の辞>

福士 謙介（東京大学未来ビジョン研究センター センター長・教授）

飯島 勝矢（東京大学未来ビジョン研究センター 教授、東京大学高齢社会総合研究機構 機構長）

<第1部> 地方部の地域活動から
～住民パワーと資源の共存と融合～

●高知県仁淀川町：小松 仁視（NPO 法人フレイルサポート仁淀川 理事）
「90 歳代は伸びざかり～あなたの笑顔はわたしの幸せ・熟れたおとなのフレイルに強いまちづくり～」

●新潟県佐渡市：尾畑 留美子（尾畑酒造株式会社 専務取締役）
「酒造りは地域創り～資源・エネルギー・ヒトを循環させるサステナブル・ブリューアリー」

●鹿児島県南種子町：佐藤 南帆（種子島出身学生団体のらねこ 副代表 / 九州大学大学院総合理工学専攻 修士 1 年）
「種子島出身の大学生の視点から描く地域づくり：学生団体のらねこの活動の軌跡と広がり」

●神奈川県秦野市：可児 康一郎（NPO 法人自然塾丹沢ドン会 理事長）
「健幸育む週末の里山活動 丹沢ドン会の棚田の復元・米作り」

●岩手県：佐藤 光勇（岩手県 ふるさと振興部 県北・沿岸振興室 県北振興課長）
「地域資源の活用による新たな価値創造に向けた取組」

●東京都文京区：浦田 愛（文京区社会福祉協議会地域福祉推進係 課長）
「つながりをつくる地域の居場所づくり ～地域福祉コーディネートの視点から～」

<第2部> 東京大学からの最新知見

●田中 友規（東京大学高齢社会総合研究機構 特任助教）
「住民主体の健康長寿活動の全国基盤構築およびビッグデータからの洞察」

●大塚 彩美（東京大学未来ビジョン研究センター 特任研究員）
「CO-JUNKAN から新たに生み出す次世代型地域づくり」

<第3部> 総合討論：地方部からのパワーによる地方創生
～住民と資源の相互連関～

【パネリスト】 高知県仁淀川町 小松 仁視
新潟県佐渡市 尾畑 留美子
鹿児島県南種子町 佐藤 南帆
神奈川県秦野市 可児 康一郎
岩手県 佐藤 光勇
東京都文京区 浦田 愛
飯島 勝矢
菊池 康紀

【モデレーター】 尾下 優子
（東京大学未来ビジョン研究センター 特任講師）

<閉会の辞>

菊池 康紀（東京大学未来ビジョン研究センター 教授、
東京大学「プラチナ社会」総括寄付講座代表）



1

地方部の地域活動から ～住民パワーと資源の共存と融合～

90歳代は伸びざかり
あなたの笑顔は私の幸せ、離れたあんなの笑顔に似てくる

健康な週末の里山活動
月間10回の里山の健康・農作業

酒造りは地域創り
酒造り・エネルギー・ヒトを結ぶネットワーク・コミュニティ

地域資源の活用による新たな価値創造に向けた取組
地域資源の活用による新たな価値創造に向けた取組

種子島出身の大学生の視点から描く地域づくり
学生生活の中心となる活動の拠点と広がり

つながりをつくる地域の居場所づくり
地域福祉コーディネーターの視点から

2025.02.01 大学・地域連携における「ローカル・コモンズ」を考えるシンポジウム ～ウェルビーイング/生きがいのある健康長寿を実現できる地域コミュニティづくり～

2

東京大学からの最新知見

健康長寿 Well-being
自然の恵みを受け、健康長寿を実現する

CO-JUNKAN
新たな住民出資型地域づくり

co-learning
地域・企業・大学が連携し、学びを深める

フレイル予防
地域・企業・大学が連携し、健康長寿を実現する

2025.02.01 大学・地域連携における「ローカル・コモンズ」を考えるシンポジウム ～ウェルビーイング/生きがいのある健康長寿を実現できる地域コミュニティづくり～

3

総合討論：地方部からのパワーによる地方創生～住民と資源の相互連関～

ローカル・コモンズを促す、いかに?
地域・企業・大学が連携し、健康長寿を実現する

行政・民間、どう連携?
地域・企業・大学が連携し、健康長寿を実現する

地域内外のつながりのバランス
地域・企業・大学が連携し、健康長寿を実現する

自分たちの未来を創る
地域・企業・大学が連携し、健康長寿を実現する

2025.02.01 大学・地域連携における「ローカル・コモンズ」を考えるシンポジウム ～ウェルビーイング/生きがいのある健康長寿を実現できる地域コミュニティづくり～



東大メンバーの集合写真

IARU（国際研究型大学連合）における「Aging, Longevity, and Health (ALH)」グループによる2024年の年次国際会議が、2024年9月30日から10月2日にかけて、英国オックスフォード大学にて開催されました。本会議は、加盟校が持ち回りで主催しているものであり、今年度はオックスフォード大学がホスト校を務め、世界各国から第一線で活躍する研究者、大学院生、若手研究者が参加しました。

ALH イニシアティブは2012年より

始動し、高齢化社会における課題の解決に向けた共創的な国際研究および人的交流のプラットフォームとして機能してきました。東京大学からは、高齢社会総合研究機構（IOG）および未来ビジョン研究センター（IFI）「人生100年を設計する超高齢社会まちづくり研究ユニット」がこの取り組みに継続的に参加し、国際ワークショップの開催、ネットワーク形成、若手研究者の育成に尽力しています。

今回の会議では、特定のテーマは設けず、多様なアプローチから「加齢」「健康」「地域社会」「テクノロジー」「社会経済的要因」などの課題について、幅広い学術領域からの発表が行われました。東京大学からは、飯島勝矢先生、コスタンティーニ先生、呂偉達研究員、大学院生の小関裕介氏およびYifan Li氏が参加しました。3日間にわたるプログラムには、Senior Faculty による基調講演や研究報告に加えて、Early Career Researchers（ECR）による口頭発表、ポスターセッション、グループディスカッション、ガイド付きキャンパスツアー、Ashmolean Museum 見学などが組み込まれ、参加者間の活発な交流が促進されました。

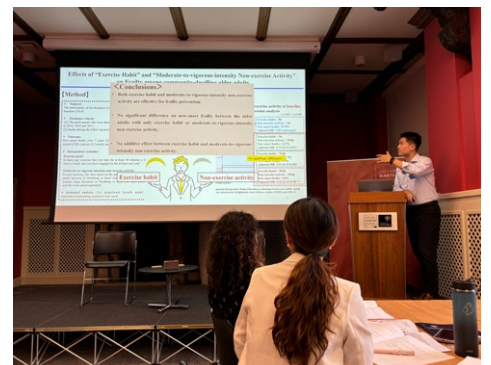
東京大学からの発表では、WINGS-GLAFS の小関裕介氏が「VR アバターの心理的影響と高齢者の食事・リモートワークへの応用」、WINGS-CFS の Yifan Li 氏が「健康モニタリングを可能にする身体スケールの電子テキスタイル」、呂偉達研究員が「住民主体のフレイル予防に向けたポピュレーションアプローチ」をそれぞれ報告しました。いずれの発表も活発な質疑応答が交われ、国際的な知見の共有とネットワークの構築が図られました。



WINGS-GLAFS 生 小関さんの発表



WINGS-CFS 生 Yifan さんの発表



呂研究員の発表



夜の懇親会

これらの研究発表は、それぞれの専門分野における先端的な視点から高齢者の QOL 向上や地域社会との連携強化を図るものであり、多国籍な参加者との質疑応答を通じて、有意義な議論が展開されました。特に、科学的知見がどのように実践や政策に貢献し得るかという点について、深い洞察が共有されました。

また、学際的・国際的な視点から高齢化社会に対する多様な解決策を模索することを目的としたグループワークや全体討議も行われ、参加者は各国の文化的・制度的背景の違いを理解し合うとともに、将来に向けた研究協力の可能性を探る貴重な場となりました。

最終日には、ALH Steering Committee Meeting および ECR ネットワークミーティングが開催され、今後の活動計画や論文共同執筆に関する検討がなされました。さらに、ECR による学術的リフレクションでは、各自の研究が持つ社会的意義や学際的応用についての意見交換が行われました。

この国際会議は、ALH 分野において今後のリーダーシップが期待される大学院生や若手研究者にとって、国際的なネットワークに加わる貴重な機会であると同時に、実践と研究を架橋する新たな視座を得る場となりました。東京大学の参加者にとっても、他国の研究動向や多様な社会課題に触れ、自身の研究活動の方向性を再考する契機となりました。



集合写真

イベントカレンダー

2024年度	
4月	● 高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS 2024年度開講式 ● ジェロントロジー産学連携プロジェクト 2024年度開講式
6月	● 米国・メリーランド大学との若手交流会
7月	● 中国・上海市にて華東師範大学・東京大学高齢社会総合研究機構共催「日中の超高齢社会に関する学際的研究シンポジウム」開催
8月	● 豪州・国立サウス・ウェールズ大学 来訪 ● 中国・台州都市建設視察団 来訪 ● 第1回全国フレイルトレーナーの集い
9月	● ジェロントロジー産学連携プロジェクト前期総括会 ● ジェロントロジー産学連携プロジェクト<2Days Workshop> ● 「高齢社会対策大綱」公開(P32-P33参照)
10月	● IARU国際会議 英国・オックスフォード大学(P124-P125参照) ● タイ・Dr Sommach Unkhmthong、WHP視察団 来訪 ● 韓国・Cha医科学大学大学院生との交流会
12月	● 韓国・檀国大学校学生との交流会(JST主催「さくらサイエンスプログラム」にて来日)
1月	● 中国・華東師範大学との意見交流会
2月	● 第8回全国フレイルチェックの集い(オンライン)「フレイルサポーターの底力～私たちのまちを私たちの“チカラ”で～」 ● IOG/IFI2024年度シンポジウム(P122-P123参照) 「大学・地域連携における「ローカル・コモンズ」を考えるシンポジウム ～ウェルビーイング/生きがいのある健康長寿を実現できる地域コミュニティづくり～」
3月	● 高齢社会と法ワークショップ 2025 March ● ジェロントロジー産学連携プロジェクト年度総括会 ● 「社会提言」公開(P34-P35参照) ● 高齢社会総合研究国際卓越大学院 WINGS-GLAFS 2024年度修了式



全国フレイルトレーナーの集い



第8回全国フレイルチェックの集い



IOGシンポジウム

メディア情報

発売日・出演日	媒体・番組名	記事・特集名	執筆・出演者
2024/4/4, 4/18, 6/6, 7/4, 7/18, 8/1, 9/19, 10/3, 12/26, 2025/1/16	軽井沢エフエム放送	軽井沢ラジオ大学 ジェロントロジー学部	飯島勝矢
2024/4/8	読売新聞	ヨミドクター フレイル予防のポイント 大切な三つの柱は?… 東京大学高齢社会総合研究機構 飯島勝矢教授に聞く	飯島勝矢
2024/4/20	メディカルトリビューン	たった5項目でオーラルフレイルをチェック 医科・歯科の3学会が合同ステートメント発表	飯島勝矢、田中友規
2024/4/21	NHK 日曜討論	「どうする高齢期の住まい!」に専門家として出演	大月敏雄
2024/5/31	NHK Eテレ	アンコール／特集「人生レンピ ～ 料理と美容 輝く80代」 (初回放送:2024/01/19放送)	飯島勝矢
2024/6/17	NHKラジオ マイあさ! マイ!Biz・経済のイマ	高齢者のための「モザイク型就労」とは	檜山 敦
2024/7/20	日経新聞	土曜版「NIKKEIプラス1」 オーラルフレイル 口の衰え いずれ心身にも	飯島勝矢
2024/7/23	読売新聞	フレイル講座 生活行動 健康につなげる 農作業通じ交流 実験へ	飯島勝矢
2024/7/31	ライフメディコム	カレントセラピーVol.42 No.8 対談司会 日本におけるWell-beingと生きがいを追い求めて - 住民へのエンパワメント	飯島勝矢
2024/8/5	週刊 保健衛生ニュース 第2269号	「フレイル予防推進会議」発足、 先駆者的自治体や企業等が参加	辻 哲夫
2024/9/5	花王	KAO ヘルスケアレポート 巻頭インタビュー 全身の健康はお口のケアから	飯島勝矢
2024/9/7	文化放送	大垣尚司・残間里江子の大人ファンクラブ	飯島勝矢
2024/9/10	クインテッセンス出版	新聞QUINT 特別対談企画 オーラルフレイルの早期発見・治療につなげる 新指標「OF-5」とは? -なぜ、今口腔昨日が評価されるのか?	飯島勝矢
2024/10/1	さわやか vol.39 年次活動報告2024	巻頭特別寄稿 日本在宅介護協会の草創期を振り返って	辻 哲夫
2024/10/11	朝日新聞	性差分析:安心して暮らすために	孫 輔卿

メディア情報

発売日・出演日	媒体・番組名	記事・特集名	執筆・出演者
2024/11/29	日刊ゲンダイ	人生100年時代の歩き方 フレイル予防シニアの元気守る自治体&企業の取組	辻 哲夫
2024/12/18	週刊高齢者住宅新聞 第784号	第2回総会シンポジウム開催について 虚弱予防で産官学連携	辻 哲夫
2024/12/20	季刊 監事 2025.1 vol.029	特別対談 社会参加する機会をつくることで高齢者は元気になる。 高齢者と若い世代の共存を	辻 哲夫
2024/12/20	日本食糧新聞	ロッテ財団「研究助成事業」ロッテ重光学術賞に 田中友規・東大特任助教	田中友規
2024/12/24	"日本再生へのチャレンジ ー国家経営の抜本的施策をー"	社会保障制度と少子化対策を中心とする振り返りと 新しい政策モードへの転換について	辻 哲夫
2024/12/25、 2025/1/8	NHK Eテレ『きょうの健康』	骨の“新健康術”「骨折を防ぐ!ポイントは“足裏”」 NHKきょうの健康、アンコール放送	田中敏明
2024/12/26	NHK 総合 あしたが変わるトリセツショー	100歳×100人徹底取材1万年の健康パワーSP	飯島勝矢
2024/12/26	NHK 総合 あしたが変わるトリセツショー	炎症を防ぐ食生活の研究	孫 輔卿
2025/1/8	ファンデリー	フレイル予防のための“食の楽しみかた”	田中友規
2025/1/14	医学会新聞 第3569号	2025年問題として改めて問い直されていること	辻 哲夫
2025/1/25	読売新聞	「衰え」兆候 生活見直し 栄養・運動・社会参加 予防の柱	飯島勝矢
2025/2/28	集中 Medi Con 2025MAR3	高齢者が自宅で幸せに生活できる地域包括ケアの 理想モデルを追及	辻 哲夫
2025/3/2	日経新聞電子版	高齢女性「生きがいなし」は虚弱リスク 疲労感強い傾向	孫 輔卿
2025/3/5	山梨日日新聞社	認知症リスク AI分析	酒谷 薫
2025/3/13	NHK 総合 あしたが変わるトリセツショー	改訂版足・フレイル	飯島勝矢
2025/3/30	中日新聞	第3回あ・い・ち・ふ・くしシンポジウム 自分らしく生きるためには	辻 哲夫

出版物

シリーズ〈超高齢社会のデザイン〉

GLAFS講義をもとにジェロントロジーという学問の
体系化を目指すシリーズ本刊行中
(2024年度以降も続刊予定)



老化と老年病 予防・治療・医療的配慮の基礎

秋下雅弘編
東京大学出版会 2020年2月



人生100年時代の多世代共生 『学び』によるコミュニティの 設計と実装

牧野篤編
東京大学出版会 2020年9月



高齢者法 長寿社会の法の基礎

樋口範雄・関ふ佐子編
東京大学出版会 2019年8月



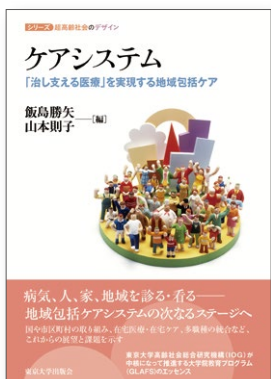
ジェロンテクノロジー 高齢社会を支える 情報通信技術の展開

廣瀬通孝・伊福部達編
東京大学出版会 2021年11月



社会保障制度 国際比較でみる年金・医療・介護

岩村正彦・嵩さやか・中野妙子 編
東京大学出版会 2022年6月



ケアシステム 「治し支える医療」を実現する 地域包括ケア

飯島勝矢・山本則子編
東京大学出版会 2023年3月

IOGメンバーの著書



在宅医療 治し支える医療の 概念と実践

辻 哲夫
中央法規 2024年4月



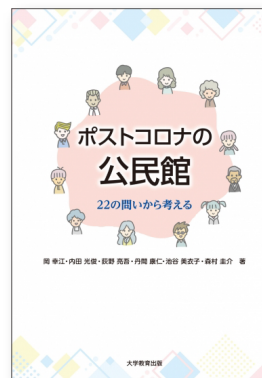
臨床が変わる! 医療AI シンプル・レクチャー・ブック

酒谷 薫
新興医学出版社 2024年7月



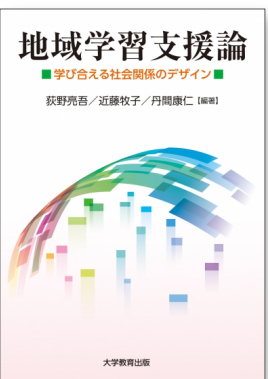
地域とつながる高齢者・ 障がい者の住まい 計画と設計 35の事例

松田 雄二、三浦 貴大
学芸出版社 2024年9月



ポストコロナの公民館 22の問いから考える

萩野亮吾
大学教育出版 2025年2月



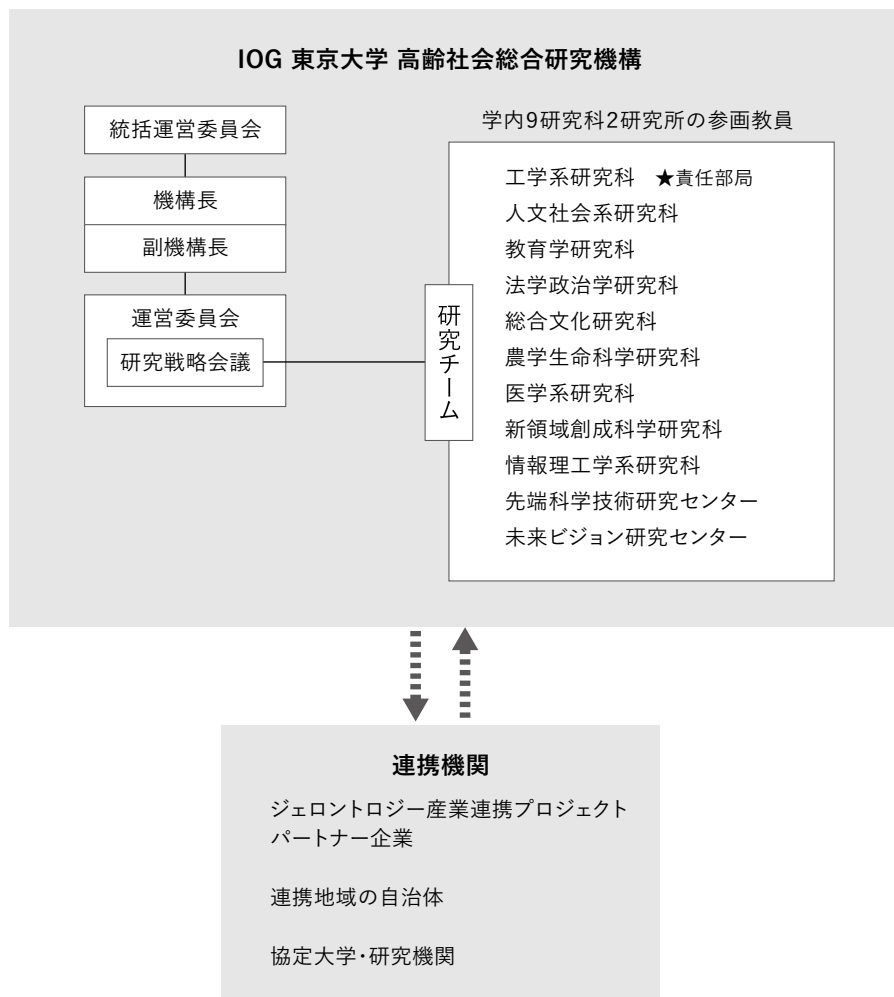
地域学習支援論 学び合える社会関係の デザイン

萩野亮吾
大学教育出版 2025年3月

沿革

2006年 4月	ジェロントロジー寄附研究部門 設置 (平成18年4月に、総長室総括プロジェクト機構の活動の一つとして、日本生命保険相互会社、セコム株式会社、大和ハウス工業株式会社の3社からの寄附金により設置)
2008年 4月	学部横断型ジェロントロジー教育プログラム 開講
2009年 4月	総長室総括プロジェクト機構・高齢社会総合研究機構 設置 産学連携ジェロントロジーコンソーシアム 設立
2009年 6月	柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会 発足 (柏市、東京大学高齢社会総合研究機構、独立行政法人都市再生機構の3者による共同研究会)
2010年 11月	東京大学柏キャンパス第2総合研究棟 竣工
2011年 4月	産学ネットワーク「ジェロントロジー」 設立
2011年 5月	東京大学柏キャンパス第2総合研究棟 稼働開始
2014年 4月	博士課程教育リーディングプログラム 「活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム」(GLAFS) 開講
2020年4月	連携研究機構・高齢社会総合研究機構に改組 ジェロントロジー産学連携プロジェクトに組織変更 国際卓越大学院教育プログラム(WINGS-GLAFS) 開講

組織図



IOG 活動報告書 2024

東京大学高齢社会総合研究機構

Institute of Gerontology, The University of Tokyo

TEL.03-5841-1662(代表) / FAX.03-5841-1662

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館7階

E-mail:info@iog.u-tokyo.ac.jp

発行 2025年6月

Editor/Writer 香川志帆(オフィスブライシング合同会社)

池田大作(池田屋)

Designer 北川原由貴

<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>

IOGアニュアルレポート2024年度

IOG 東京大学 高齢社会総合研究機構
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 工学部8号館713号
TEL./FAX. 03-5841-1662

